

昭和十二年一月二十三日 第三種郵便物認可
昭和十五年十月二十五日 印刷 納本
昭和十五年十一月一日(毎月一回一日發行)

禁轉載

道路の改良

第二十二卷
第十一號

社團
法人

道路改良會

鋪裝報國

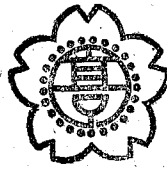
日本鋪道株式會社

東京・丸ノ内

社長 淺利三郎

東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

土木建築
道路鋪裝
工事請負



株式會社 高野組

本社

東京市京橋區京橋一ノ二
電話京橋(56)長七八九二三五番

大阪出張所

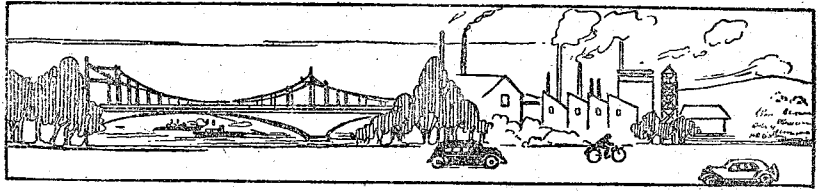
大阪市北區梅ヶ枝町一五七(梅ヶ枝ビル)
電話北(36)一九九五六番

福岡出張所

福岡市外箱崎町白濱網屋三二二一
電話東三三四五番

上海出張所

上海吳淞町一八九號
電話四三二二一三番



『道路の改良』第二十二卷第十一號 目次 昭和十五年十一月一日發行

口繪

静岡縣廳道路愛護表彰式

卷頭言

詔書・告諭

論說

東亞廣域經濟と交通特に道路……………經濟學博士 檀崎敏雄(五)

時論

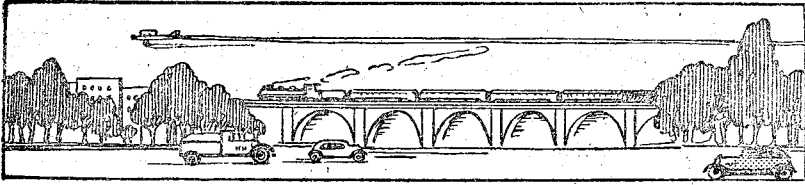
大日本土木協會を確立せよ……………中川幸太郎(三)

研究

判例瞥見……………内務省 田口二郎(云)

說苑

歴代内務土木局長と其時代(九) 堀田貢氏……………清水生(元)
 故小橋氏の行政機構改革意見……………S 生(蓋)



静岡縣の道路愛護事業概況(一)……………静岡縣土木部 海野彌之助(六)

文化演藝「峠」……………JOBK文藝課 岩崎修構成(六)

土木行政叢書第四卷「公有水面編」に就て……………大和田好國(七)

時局日誌(三十八)……………Y H 生(九)

内務省特報

◎内務省告示◎近衛内閣總理大臣の放送◎地方長官會議と安井内相の訓示……………(一九)

法令

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………M K 生(三六)

逐條土地收用法資料(二三終)……………高坂孝三(四〇)

路政春秋

高度國防の完備と道路の整備……………其他……………(一五)

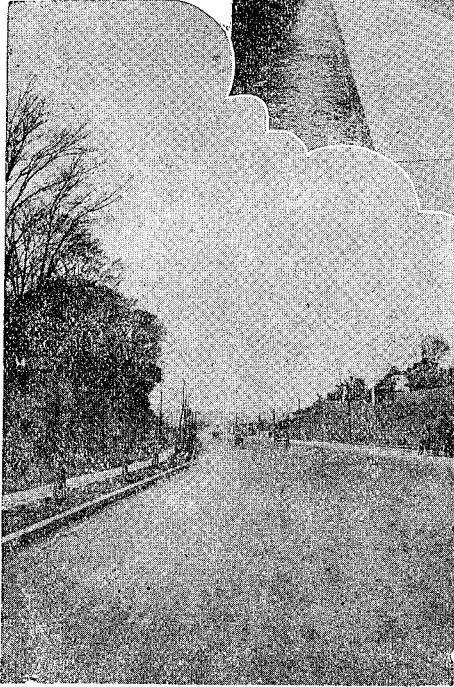
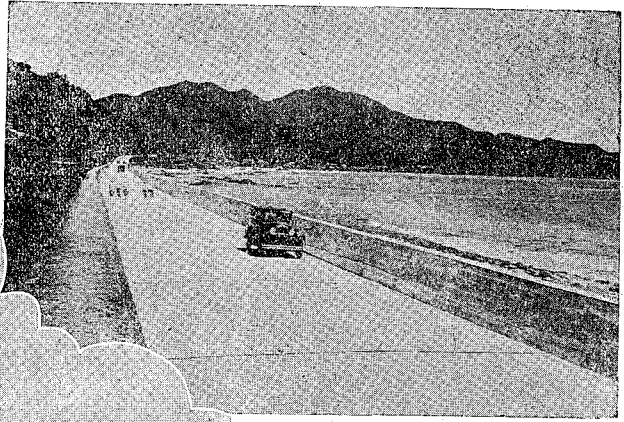
雜報

◎理事會◎内務省土木試驗所談話會◎近刊圖書雜誌……………(一六)

叙任辭令……………(一六)

編輯室の内外……………(一六)

静岡縣由比國道
→
ベロセメント使用



早 強
アサノ
ベロセメント

強 度 高 ク
硬 リ 早 ク
使 テ 經 濟

↑ 大宮街道志村附近
淺野セメント使用

— 説明書御申込次第送呈 —

淺野セメント株式會社

東京市 丸ノ内 海上ビル

靜岡縣廳道路愛護表彰式



昭和十五年九月二十七日

書修獨の者務實木土

座講木土用實

級初
と
級上

度程等中

秋期新學期開始

新會員大募集

一億一心。實力養成。技術は即ち力である。世は技術時代。土木は國本的技術。土木技術は高度國防の基本的一環である。

新東亞建設の第一歩は土木日本の大陸進出に在り。行け！ 土木家は大陸に!!! 國力伸張のため將た東亞興隆のため。

土木を以て身を立てんと欲する人のために、島國日本より大陸日本へ進出せんと欲する人のために、本講座を捧げる。

▼兩講座共初代内務省土木試験所長、元東京市土木局長牧彦七博士の綜管下に、内務・鐵道・農林・遞信四省、東大・日大・興亞院・滿洲國政府・東京市役所・北京特別市公署・其他の關係諸先生の執筆に成る時需の最良書である。

▼初級講座には土木製圖・測量學・應用力學・土木材料・施工法・鐵筋コンクリート・河川工學・砂防工學・港灣・道路・橋梁・鐵道工學・發電水力・都市計畫・下水道の外に科外講話あり。一年三ヶ月修了。毎月一册配本。會費金壹圓五拾錢前納。全卷即時配本可能。

▼上級講座には簡易鋪裝・セメント系鋪裝・コンクリート橋梁及溝橋・隧道工・河港及運河・基礎工・擁壁工・農業土木・航空土木・防空土木・高速鐵道・軌道及特殊鐵道・土木地質學・土木工事監督・續土木工事監督・土木行政法綱要・應用電氣工學等あり。一年一ヶ月終了。

▼送料每卷市内六錢、會費金壹圓七拾錢(但第十三號に限り金壹圓)前納。全卷即時配本可能。申込期限は來る十二月十五日。期限内申込には特典があります。

内容見本無代進呈

日本土木工學會

東京市世田谷區上馬町一ノ六五九番地

振替東京二〇八三四番



事工装舗路道トルアフスア

事工装舗トルアフターオウ割乳青瀝

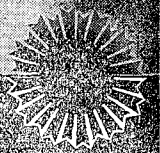
賣販理代トルアフターオウ・トルアフスア倉小

賣販造製グソイフルヒサア

社會式株木工市郡

地番二目丁一橋奈屋橋奈市奈東

番八六二二 (56) 橋奈 話電



昭和十五年

道路の改良

十一月一日

卷二十二第

號一十第

詔書

大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤輿ヲ一字タラシムルハ實ニ皇祖皇宗ノ大訓ニシテ朕ガ夙夜
眷々措カザル所ナリ而シテ今ヤ世局ハ其ノ騷亂底止スル所ヲ知ラズ人類ノ蒙ルベ
キ禍患亦將ニ測ルベカラザルモノアラントス朕ハ禍亂ノ戡定平和ノ克復ノ一日モ
速ナランコトニ軫念極メテ切ナリ乃チ政府ニ命ジテ帝國ト其ノ意圖ヲ同ジクスル
獨伊兩國トノ提攜協力ヲ議セシメ茲ニ三國間ニ於ケル條約ノ成立ヲ見タルハ朕ノ
深ク懌ブ所ナリ

惟フニ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シメ兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムルハ曠
古ノ大業ニシテ前途甚ダ遼遠ナリ爾臣民益々國體ノ觀念ヲ明徴ニシ深ク謀リ遠ク
慮リ協心戮力非常ノ時局ヲ克服シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼セヨ

御名 御璽

昭和十五年九月二十七日

告 諭

●内閣告諭

日獨伊三國條約ノ締結ニ當リ、畏クモ 大詔ヲ渙發セラレ、帝國ノ嚮フ所ヲ明ニシ、國民ノ進ムベキ道ヲ示サセ給ヘリ。聖慮宏遠洵ニ恐懼感激ニ堪ヘザルナリ。

恭シク惟フニ世界ノ平和ヲ保持シ、大東亞ノ安定ヲ確立スルハ、我が肇國ノ精神ニ淵源シ、正ニ不動ノ國是タリ。昨秋歐洲戰爭ノ發生ヲ見、世界ノ騷亂益々擴大シ、底止スルトコロヲ知ラス。是ニ於テカ速ニ禍亂ヲ戡定シ、平和克復ノ方途ヲ講ズルハ、現下喫緊ノ要務タリ。適々獨伊兩國ハ帝國ト志向ヲ同ジウスルモノアリ。因リテ帝國ハ之ト相提攜シ、夫々大東亞及歐洲ノ地域ニ於テ新秩序ヲ建設シ、進ンデ世界平和ノ克復ニ協力センコトヲ期シ、今般三國間ニ條約ノ締結ヲ見ルニ至レリ。

今ヤ帝國ハ愈々決意ヲ新ニシテ、大東亞ノ新秩序建設ニ邁進スルノ秋ナリ。然レドモ帝國ノ所信ヲ貫徹スルハ前途尙遠ニシテ、幾多ノ障碍ニ遭遇スルコトアルベキヲ覺悟セザルベカラズ。全國民ハ謹デ 聖旨ヲ奉體シ、非常時局ノ克服ノ爲益々國體ノ觀念ヲ明徴ニシ、協心戮力、如何ナル難關ヲモ突破シ、以テ 聖慮ヲ安ンジ奉ランコトヲ期セザルベカラズ。是レ本大臣ノ全國民ニ望ム所ナリ。

昭和十五年九月二十七日

内閣總理大臣 公爵近 衛 文 麿